



コニファーconifer について

コニファーとは、球果(コーン = cone)をつけ、針のような葉を持つ針葉樹の総称です。主として欧米で改良された園芸品種の針葉樹を指すことが多く、一般には庭木として観賞価値の高い針葉樹の樹種です。

日本に適応しているコニファーの代表的なものとして、イチイ属、イトスギ属、クロベ属、ツガ属、トウヒ属、ヒノキ属、ビャクシン属、ヒマラヤスギ属、モミ属、レイランドヒノキ属など、十数種があげられます。



いろいろな種類

樹高：低木(1.5m以下)、中木(1.5~3m)、高木(3m以上)

樹形：広円錐形、狭円錐形、円柱形、ファスティギアータ形、枝垂れ形、球形、半球形、盃形、匍匐形など

葉色：緑色、黄色、黄金色、青色、銀色、灰色、斑入りなど多種多様で、春夏秋冬楽しめます。

特長を生かした使い方

生長の早いものは後ろに、遅いものは手前に配置します。暖かいところで育つイトスギ属や、寒い地方で育つモミ属など、環境にあったものを選びましょう。一本で見せるシンボルツリーから、匍匐形の樹種で地面を覆うグランドカバーや、萌芽力があり、剪定が容易で色の美しいものを生垣に利用したり、その他、トピアリーや鉢物や寄せ植えなどいろいろな利用方法があります。

苗の選び方 幹が太くしっかりした、葉のつやが良い、病害虫に冒されていない、根張りがしっかりした苗を植え付けの適期に購入しましょう。

植え方

庭植え：植え付けの適期は樹種によって異なりますが、多くの樹種は3~4月くらいです。夏の暑い時期は避けます。風通し日当りのよい場所に植えることが一番大切です。何本か植える場合は生長を考慮して、密になりすぎないように間隔をあけて植えます。また、生長の早いものと遅いものがあるのでバランスを考えて位置を決めます。

まず、植える場所の土をやわらかくしておきます。腐葉土と水はけの良い鹿沼土を1対1の割合で混ぜ、掘り返した土と同量程度の用土をつくります。水はけが悪い場合には軽石を混ぜます。根鉢よりも2~3まわりほど大きめに穴を掘り、掘り返した土と作った用土を混ぜて穴に入れ、苗の根の上部が少し出るくらいに調節します。ビニールポットの苗はポットをはずし、根巻き苗の麻布(ジュート)はいずれ腐りますのでそのまま、不織布の場合は腐らないので、切り取るか、底と横に切込みを入れて植えます。土を入れ終えたら、穴の周囲にドーナツ状に土を盛り、水鉢を作っておきます。幹に沿ってまっすぐに支柱を立て、ひもで2か所くらいを結び付けます。水鉢に十分に水をはり、様子を見ながら何回かに分けて水を入れます。植え付け後は、大きさの目安を3年後くらいにおき、そのときに予想した状態になるように手入れをしていきます。

鉢植え：用土は赤玉土(中粒以上)が5~6割、腐葉土が2割くらい、鹿沼土かピートモスが2~3割で、しっかり混ぜて使います。鉢底にメッシュを敷き、その上に大粒の赤玉土を敷き、用土を入れて、苗の根が少し出るように調節しながら、苗を用土で埋めます。苗の植え方は庭植えの場合と同様ですが、鉢植えでは特に根の状態を良く見て、ルーピングしているような場合は、植え付けの適期であれば太い根や回っている箇所を少し切って植えます。時期が悪いときはそのまま植えます。支柱を立て、たっぷりと水をやります。

整枝剪定

3年後ひとまず完成したら、それ以後は刈り込みで大きさを抑え、ベストな状態を長く保てるようにします。コニファーは自然の状態でも比較的美しい樹形を保つといわれますが、手入れをすればするほど形は整い、美しさを維持できます。整枝剪定の時期は樹種によって違います。全般的にいえることは、大きくきる強剪定は、初冬~芽が出る前(12月初旬~4月初旬)です。この期間は、木の生長がとまっているので、剪定しても、切り口から水分が流れ出ることが少なく、病気が切り口から入り込むこともなく、枝枯れを防止できます。木の生長という点では冬の間の剪定は問題ないのですが、美観的には、12月に強剪定すると、切り口がゴツゴツになったり、ヤニが出て見栄えが悪くなる場合があります。これらのことを考え合わせると、強剪定を行うのは、芽がでる直前の3月から4月初旬が最適です。軽い剪定は6~7月と、9月中旬~10月中旬に行います。夏の暑い時期は木も弱りがちなので剪定は避けます。強剪定をする場合は、2年生以上の枝を剪定し、軽い剪定の場合は、形を整えるように当年枝をカットします。

肥料 植え付け時に元肥として腐葉土を中心に堆肥などの有機質肥料を混ぜて使用します。春に植えると、根付くのはだいたい6月後半から7月にかけてになります。そのころか9月に一回、あるいは少量ずつ2回に分けて与えます。秋植えの場合は、根付いても肥料はやらずに、春になってからやります。根付いてからは、冬の間(2~3月)に寒肥として、緩効性化成肥料や油かすを少量与えます。生長の良いものは年に1回の寒肥だけで十分です。樹木をさらに大きくしたい時にだけ追肥を与えます。ただし、ビャクシン属などの葉色がブルーに発色する品種は、肥料切れを起こすと色が落ちてしまうので、追肥します。一度色が落ちてしますとなかなか復活しません。

水やり 植え付け時にはたっぷりと水をやります。特に鉢植えでは土の乾きが早く、固くなってしまいがちなので、土の表面を見て、乾いたらたっぷり水をやります。根付いてしまえば乾燥に耐えるものが多いので、土の表面が乾いてからやり、加湿にならないようにしましょう。

病害虫 胴枯れ病(樹脂胴枯れ病)、赤星病、葉枯れ病、スス病、コガネムシ、ハダニ、マツノシンマダラメイガ、ミノガ(チャミノガ)などに注意します。



日本で使われている代表的なコニファー



科名	属名	種・品種名	特徴
ヒノキ科	ヒノキ属 <i>Chamaecyparis</i>	ヒノキ「クリプシー」 <i>C. obtusa</i> 'Crippsii'	葉の先端が下がって蝶がひらひら舞うように見える黄金色の葉が特徴。
		サワラ「フィリフェラ・オーレア」 <i>C. pisifera</i> 'Filifera Aurea'	一年中、枝垂れる黄金色の葉が美しいです。刈り込んでグランドカバーに。
	レイランドヒノキ属 <i>Cupressocyparis</i>	レイランドサイプレス <i>C. leylandii</i>	レイランディーもとい、日本の環境に適し、刈り込みに強く、生育旺盛で管理が必要。
		レイランドサイプレス「ゴールドライダー」 <i>C. leylandii</i> 'Gold Rider'	葉先が黄金色。日当たりが悪いと黄緑色。根が浅いので風に対する備えが必要。
	イトスギ属 <i>Cupressus</i>	アリゾナイトスギ「ブルーアイス」 <i>C. arizonica</i> var. <i>glabra</i> 'Blue Ice'	白い粉が吹いた青緑色の葉が魅力。根が浅いので倒れない工夫が必要。
		アリゾナイトスギ「サルフレア」 <i>C. arizonica</i> var. <i>glabra</i> 'Sulfurea'	クリーム色の葉色。枝が密生したまとまりのある樹形。生長が遅いので管理容易。
		イタリアンサイプレス <i>C. sempervirens</i>	細い円錐樹形が特徴で、狭い庭向き。寒さに弱く関東以北には不向き。
		イタリアンサイプレス「スウェンズ・ゴールド」 <i>C. sempervirens</i> 'Swane's Gold'	一年中、黄金色の葉。樹形が細く狭い庭向きですが、日当たりが悪い場所には不向き。
	ビャクシン属 <i>Juniperus</i>	セイヨウネズ「スエシカ」 <i>J. communis</i> 'Suecica'	枝が密生し、刈り込んで整えます。狭い庭に向き。日が当たらないと樹形に乱れ。
		アメリカハイビャクシン「マザーローデ」 <i>J. horizontalis</i> 'Mother Lode'	黄緑色の葉が美しく、ゆっくり横に広がって生長しますのでグランドカバーに利用。
		フィッツェリアーナビャクシン「セイブロック・ゴールド」 <i>J. pfitzeriana</i> 'Saybrook Gold'	盃上の樹形で、グランドカバーに利用。新梢が伸びる頃は黄金色。日照が必要。
		コロラドビャクシン「スカイロケット」 <i>J. scopulorum</i> 'Skyrocket'	ロケットのような細い樹形で、狭い庭向き。青緑色の葉色。日照不足で生育不良。風にも弱い。
		コロラドビャクシン「ブルーエンジェル」 <i>J. scopulorum</i> 'Blue Angel'	白みを帯びた青緑色の葉。冬は紫青色。スリムな樹形で狭い庭向き。生長早く生垣に。
		コロラドビャクシン「ブルーヘブン」 <i>J. scopulorum</i> 'Blue Heaven'	葉は一年を通して銀青色で美しい。強い風が当たる場所ではまっすぐに育たない。
		コロラドビャクシン「ムーングロー」 <i>J. scopulorum</i> 'Moonglow'	青緑色の葉色。日照が不足すると青が淡く。枝葉が密で、樹形もコンパクトで、狭い庭向きです。
		ニイタカビャクシン「ブルーカーペット」 <i>J. squamata</i> 'Blue Carpet'	主枝は直立せず、水平方向に伸び、グランドカバー向き。灰青色から青緑色の葉色。
		ニイタカビャクシン「ブルースター」 <i>J. squamata</i> 'Blue Star'	矮性種で、高さ0.4m、直径0.8mほどの半球形になり、狭い庭向き。青緑色の葉色が、冬には紫色を帯びた緑色になります。
	クロベ属 <i>Thuja</i>	コノテガシワ「エレガントシマ」 <i>T. orientalis</i> 'Elegantissima'	「見手柏」と書き、枝葉が手のひらを立てたよう。丈夫で、刈り込みに強く、生垣に。
		ニオイヒバ「ヨーロッパゴールド」 <i>T. occidentalis</i> 'Europe Gold'	ニオイヒバの仲間で芳香があり、耐寒・耐暑性あり。黄金色の葉と太い円錐樹形。
ニオイヒバ「グリーンコーン」 <i>T. occidentalis</i> 'Green Cone'		名は鮮やかな緑色の円錐形の樹形に由来。生育旺盛で、耐寒・耐暑性があり、育てやすく、芳香もあり。	
ニオイヒバ「スマラグ」 <i>T. occidentalis</i> 'Smaragd'		日本の気候に適し、手入れをしなくても美しい円錐形の樹形。柑橘系の芳香あり。	
マツ科	トウヒ属 <i>Picea</i>	カナダトウヒ「コニカ」 <i>P. glauca</i> 'Conica'	矮性種で、葉の密度が濃く、自然に美しい円錐形。生長が遅いので狭い庭でゆっくり育てるのによい。
		コロラドトウヒ「グロボーサ」 <i>P. pungens</i> 'Globosa'	矮性種で、大きくても2mくらいの半球形。銀青色の葉色が特徴。密生した緻密な樹形。
		コロラドトウヒ「ホープシー」 <i>P. pungens</i> 'Hoopsii'	白みがかった銀青色の葉。生長は遅いですが大木に。過湿に弱く、枝透かしが必要。